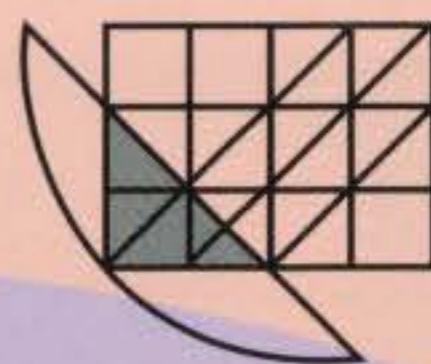


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.10

2005.3

世界遺産登録記念特別展

熊野速玉大社の名宝

— 新宮の歴史とともに —

平成17年(2005)10月22日(土)～11月27日(日)



熊野速玉大社社殿

特別展 きのくに 仮面の世界

— 高野山周辺の芸能と紀伊徳川家の能 —

平成17年(2005)年4月23日(土)～6月5日(日)

特別展

きのくに 仮面の世界

—高野山周辺の芸能と

紀伊徳川家の能—

4月23日(土)～6月5日(日)



狂言面 祖父
室町時代 紀州東照宮蔵

和歌祭の祭礼行列のうち、百面(面掛)という集団が使用する仮面。ただし本来は室町時代の猿楽(能・狂言)で滑稽な役回りに使ったもの。初公開。



猿楽面 女
室町～桃山時代 河根丹生神社蔵

若く愛らしい女性を表した仮面。顎が細くやや茫洋とした表情などから近世以前の製作と考えられ、古い女面として貴重な資料。



猿楽面 悪尉
江戸時代 慶長15年(1610) 古沢巖島神社蔵

歯をむき出しにして恐ろしい形相を見せる仮面で、荒ぶる神の姿を表したもの。面裏に慶長15年、高野山南谷真徳院が製作したことが記される。

和歌山県内には数多くの古い仮面が残されています。それらは、かつて盛んに行われていたさまざまな芸能の様子とそのにぎわい、人々の息づかいを今に伝えてくれる貴重な文化財です。特に高野山周辺には、仏教的な儀礼で使用された行道面や、猿楽で使用された仮面などが数多く確認でき、また江戸時代に和歌山を治めた紀伊徳川家ゆかりの能面や狂言面もその一部が今日まで伝わっています。

この特別展では、自由な造形のものから洗練された様式美を見せるものまで、さまざまな仮面の魅力に触れていただき、これらの仮面を守り伝えてきた地域の深い歴史を感じ取っていただきたいと思います。

主な出陳資料

- 花園村・上花園神社所蔵行道面
- 九度山町・河根丹生神社所蔵猿楽面
- 九度山町・古沢巖島神社所蔵猿楽面
- 岩出町・根来寺所蔵能面(和歌山県指定文化財)
- 和歌山市・紀州東照宮所蔵仮面ほか多数

館蔵品コーナー⑩

熊中奇観

熊中奇観	二巻一帖	紙本着色	江戸時代後期
第一巻	縦三〇・四 cm	横一五〇六・〇 cm	
第二巻	縦三〇・四 cm	横一三二五・〇 cm	
那智山図	縦六〇・八 cm	横一一三・二 cm	



熊野三山への参詣道である熊野街道周辺の景観や名所・物産などを、やや俯瞰した構図で描いた絵巻です。伊勢国の田丸城下(現・三重県玉城町)から潮岬までを描いた一巻と、本宮から和歌山までを描いた二巻、および那智山周辺を描いた折帖二帖の二巻二帖からなっています。絵巻の余白部分には、名所の細かい解説が詞書きのよりに書き込まれているほか、熊野周辺の植物や鯨の種類など博物学的な記述が多い点も、一つの特徴です。

さらに興味深いのは、付属する明治五年(二八

七二)の書付で、かつてはこの絵巻の冒頭に高芙蓉(二七二二～八四)という文人の題字があったことが記されています。その題字の引用によれば、植村禹言(？)一七八二と、いう大和国出身の地誌学者がこの絵巻を所蔵していたようです。また、この絵巻と同系統とされる「南紀巡覧図」には、大坂の酒造家で江戸時代中期を代表する文人でもあった木村兼葭堂(一七三六～一八〇二)の墨書と蔵書印があることが知られています。植村禹言は、兼葭堂の日記に登場し、何度か兼葭堂を訪ねたことが確認されるので、この絵巻が兼葭堂を中心とする文人たちの間で鑑賞され、写された可能性も考えられるでしょう。

この絵巻は、江戸時代中期の熊野街道の様子や熊野の自然を示すだけでなく、熊野によせる当時の文人たちの思いをもうかがうことが出来る貴重な資料でもあるのです。なお、この資料は「熊野速玉大社の名宝―新宮の歴史とともに―」で展示します。



きりまきえてばこ
国宝 桐蒔絵手箱 (熊野速玉大社古神宝類のうち)
南北朝時代 明德元年(1390) 熊野速玉大社蔵

熊野速玉大社の主神である熊野速玉大神に奉納されたと見られる手箱。金粉を密に蒔いた華麗な沃懸地に、桐の大樹の文様があらわされている。



いろえひおうぎ
国宝 彩絵檜扇 (熊野速玉大社古神宝類のうち)
南北朝時代 明德元年(1390) 熊野速玉大社蔵

熊野速玉大社にまつられる12の神々にそれぞれ奉納された檜扇。表裏には、金銀の切箔や緑青・朱などでさまざまな文様が描かれている。



からぎぬ ぬきしろ こあおいもん うきおり
国宝 唐衣 緯白小葵文浮織 (熊野速玉大社古神宝類のうち)
南北朝時代 明德元年(1390) 熊野速玉大社蔵

熊野速玉大社の神々に奉納された唐衣。これら多くの装束類は、手箱や檜扇と同じく、12の神々の神格にそれぞれ合わせてつくられている。



たち めい まさつねつけたりいと まき たちこしらえ
重要文化財 太刀 銘 正恒 附 糸巻太刀拵
鎌倉時代(刀身)江戸時代(拵) 熊野速玉大社蔵

紀伊藩の藩主から将軍になった徳川吉宗が、初代藩主徳川頼宣の没後50年にあたる享保6年(1721)に熊野速玉大社へ奉納した太刀。

このたびの特別展では、「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産に登録されたのを記念し、熊野速玉大社の名宝と新宮に残る文化財を一堂に展示します。古神宝類をはじめたくさんの国宝が揃う、またとない機会です。これらの資料を通して、新宮の豊かな歴史や文化を感じ取っていただければと思います。

熊野速玉大社は、熊野川の河口付近に位置し、古くから篤い信仰を集めてきました。そのため、平安時代の神像をはじめ、明德元年(一三九〇)に足利義満らによって奉納された古神宝類など、熊野信仰を象徴する文化財が数多く伝えられています。また、熊野速玉大社のある新宮は、中世には熊野別当家が置かれ、熊野三山を統轄していたほか、江戸時代には紀伊徳川家の付家老・水野氏の城下町として発達しました。新宮市内にはこのような新宮の歴史を物語る資料や文化財も残されています。

10月22日(土)～11月27日(日)

世界遺産登録記念特別展

熊野速玉大社の名宝

— 新宮の歴史とともに —

あきれるほどの**国宝**



もくぞう くま の はやたまのおおかみ ざぞう
国宝 木造熊野速玉大神坐像
平安時代 熊野速玉大社蔵

熊野速玉大社の主神としてまつられる神像。威厳ある堂々とした姿で、ヒノキの一材から彫り出されている。平安時代につくられた神像彫刻の傑作。

